

4 July 2018

SWIFT インターフェースのバージョンアップには1. サイバー攻撃、 2. スタンダードズ更新、 3. gpi の活用という 3 つの大きな理由があります。

セキュリティの強化と送金プロセスの効率化のために Release 7.2 への更新を実施してください。

絶え間ない変化が金融業界を取り巻いています。多くのお客様はより迅速で追跡可能、かつ透明性の高い送金を安全に実施することを期待しており、一方で関連規制に対するコンプライアンスが求められています。業界全体として顧客本位の取り組みを実施し、これらのニーズを満たしたサービス提供が求められています。

SWIFT は金融コミュニティ全体と協力し、セキュリティの向上と革新的な決済手段の提供を図っています。[カスタマー・セキュリティ・プログラム](#) (CSP) は全ての SWIFT ユーザーのセキュリティ基準をグローバル規模で設けています。[SWIFT global payments innovation \(gpi\)](#) は外国送金に関わる歴史的な変革であり、迅速化、追跡可能、透明性の確立といった大きな変化をもたらしています。

SWIFT 用のインターフェースを更新し最新のバージョンにすることはこれらの変化に対応することでもあり、以下のような必然性があります。

1. CSP の必須セキュリティコントロール 2.2 への対応

Alliance 製品、またその他の SWIFT へのインターフェースは、バックアップや災害対策用も含めて [Release 7.2](#) への更新が求められています。これは CSP の必須セキュリティコントロール 2.2 への対応のためでもあります。

更に SWIFT の[カスタマー・セキュリティ・コントロール・フレームワーク](#)で定められた必須セキュリティコントロールへの対応と年末までの再査定も必要となっています。

2. MT スタンダードズ・リリース 2018 と gpi に利用する UETR に対応するための更新

インターフェースソフトウェアのバージョンアップで UETR に対応する機能が追加されます。対象となる Alliance Access/Entry release 7.2.50 と AMH release 3.x.20 又はこれらに相当する他社製品では、自動的に unique end-to-end transaction

reference (UETR:送金を一意に特定するリファレンス番号)を採番し、送金メッセージに付加します。

2018 年 11 月 18 日以降、gpiを採用しているか否かに関わらず MT [スタンダード・リリース 2018](#) の一環として、UETR を生成、保管、展開(他行への転送)することが求められます。2018 年 11 月 18 日以降 UETR がない送金メッセージはネットワーク側で拒否され、NAK を受け取ることになります。変更日より十分に前に送金依頼受付から送金メッセージ送信までの一連の流れについてテストを実施し、送金システムと新しいバージョンのインターフェースの作動および UETR の生成を含めた 2018 対応を確認してください。これにより全ての SWIFT ユーザーに対する gpi 送金の追跡が世界中で可能になります。

3. MT スタンダード・リリース 2018—全ての金融機関が gpi に対応するための最初の重要なステップ

[SWIFT gpi は外国送金の標準となります](#) –2020 年末までに SWIFT ネットワーク上の全ての銀行が同日着金、追跡可能性、手数料の透明性を高めることを目指しています。

MT スタンダード・リリース 2018 に対応したシステムのアップグレードは gpi 対応のための第一歩になります。gpi 対応に必要な変更についても同時に検討してください。それにより多くの効果を見込むことができます。また、SWIFT は gpi の導入から本番稼働までのプロジェクトをお手伝いすることができます。gpi のスペシャリストにコンタクトするには[こちら](#)をクリックしてください。

上記に関するより詳細な情報については、担当営業またはこちらの[各 SWIFT オフィス](#)宛お問い合わせください。